

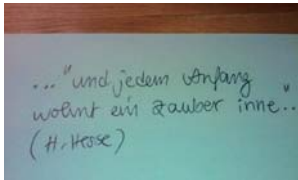
国際交流員

ルイーザさんの

魔法とためらい

MORIYA
滞在記

“Und jedem Anfang
wohnt ein Zauber inne.
(物事の初めには魔法が
宿っている)”



これは、ドイツのノーベル文学賞受賞者のヘルマン・ヘッセ著の「階段」という詩の一句であり、私の母の「新しいこと」に対しての前向きな心構えのおまじないでもあります。

世界が途切れなく変化を繰り返している中、開放的な態勢が不可欠ですが、どんなことがあっても悩むことなく変化をひたすらに楽しみにして迎える人はそれほど多くないと思います。

日本で感じた「変化」への態勢も開放的だとは言い難く、どこか矛盾的なところがあります。社会では新しいことを恐れるかのように非典型的な生き方や外国人・性的少数者などの受け入れに対して消極的な姿を見せています。

「消極的じゃだめ！」とよく説教してきた父と、ヘッセの「物事の初めの魔法」の言葉をおまじないのように使っていた母は普段は犬猿の仲の夫婦なのに、前向きな態勢についてだけは意見がいつも一致していました。もちろん、ハップ家のカオスの毎日の中だけではなく、ヘッセの「階段」はドイツ中で人気があり、結婚式や式典などでよく朗読されています。私が先日読んだ、世界一周した女性の書いた本にもその格言が出てきました。しかし、著者が Zauber (魔法) を Zauder (ためらい) に、一文字だけを変えたことで全面的な意味が変わっていました。彼女によると物事の初めには魔法が潜んでいるわけではなく、ためらいばかりが待っているそうです。

私はどちらの表現も適切だと感じます。ただし、ためらいは新しいことに向かって最初の一步を踏み出した時点で消えると思います。そして、ためらいと違って魔法は心に残り、前に進めるように背中をそっと押し続けてくれます。…と、最後にヘッセの真似をしてうまいことを言おうとした私ですが、まだまだですかね。しかし、「階段」



が出版された時のヘッセは64歳のおじいさんだったので、追いつく時間がまだ十分にあります。39年後の滞在記を楽しみにしてくださいね(笑)。

第8回 和太鼓フェスタを 開催します！

- 日時 4月2日(日) 10:50～14:15
- 会場 守谷駅西口駅前広場
- 演目 ※時間は予定／10:50～開会式
11:00～ 舞鼓の会(取手市)
11:30～ つくし野麒麟太鼓(我孫子市)
12:00～ 本陣太鼓(取手市)
12:30～ 古河保存会(古河市)
13:00～ 佐倉太鼓衆(佐倉市)
13:30～ 和太鼓 友 友 jr(守谷市)
- ※雨天の場合はプログラムの変更があります。
- 主催 和太鼓フェスタ実行委員会
(駅前イベント実行委員会)
- 共催 太鼓で日本を元気づける会
- 問合せ 駅前イベント
実行委員会 石澤
☎090-3148-5370



A R C U S

Residency for Artists, Experiments for Locals, Moriya, Ibaraki

現在のアート・芸術文化を守谷から。

- 問合せ アーカススタジオ(もりや学びの里内)
日・月曜日休館 ☎46-2600(10:00～18:00)
✉arcus@arcus-project.com
- ◎詳細な情報はアーカスプロジェクトで検索!

◎「いちねんせいのさくひんてん」開催!

アーカスプロジェクトの地域プログラムでは、アートエデュケーション構想プログラムの一環として、市内の小学校にアーティストを派遣し、一年生との共同制作を実施しています。今年度はアーティスト飯野哲心さんと郷州小・守谷小・大井沢小学校の一年生288人が「ヘンシン! 仮面ナンダー!」をテーマに作品を制作しました。アーティストと、小学校という社会の入口に立った子どもたちの表現の融合の成果を、一同に展示します。ぜひ、ご覧ください。

- 日時 3月17日(金)～21日(火) 10:00～17:00
※最終日の21日(火)は16:00まで
- 会場 市役所1階市民ホール ●入場料 無料
※詳細は公式ホームページをご覧ください

▶飯野哲心(いいの てっしん)

1981年東京都生まれ。取手市在住。金沢美術工芸大学彫刻科修了後、「男子・ファンタジー」をキーワードにユーモアを織り交ぜ、制作活動を開始。間口の広い美術を目指し、美術館やギャラリー以外にもイベント・寿司屋・寺などさまざまな場所で作品を発表。現在、東京藝術大学大学院先端芸術表現科博士後期ワークショップの様子
©加藤 甫

